

第4回向日市中学校給食検討委員会 会議録

日 時	平成28年2月23日（火）午後3時～5時
場 所	向日市文化資料館 研修室
出席委員	大谷委員長、藤井副委員長、縄手委員、富田委員、寺井委員、長坂委員、西森委員、森崎委員、宮前委員、岩野委員、野田委員、今西委員
欠席委員	西山委員
事務局	永野教育長、吉田学校教育課長、小畑学校教育課担当課長、奥村学校教育課担当課長、楠堂学校教育課主査、浦元教育総務課長、片山教育総務課課長補佐
内 容	1 中学校給食の実施方式等について 2 その他
傍 聴 者	12名
事務局	○教育長挨拶
委員長	開会
	○会議の成立
	○傍聴者入場
委員長	<p>本日の議題に入る前に、前回欠席の委員もあるので、前回の内容の確認をさせてもらう。第1点は、中学校給食は実施する、第2点は、提供の形態は温かい給食を提供できる食缶方式、第3点は、提供の方法はクラス全員が同じものを食べる全員喫食、第4点は、家庭の弁当を希望する意見が多かったので、弁当について配慮する。この4点について前回の会議で合意いただいた。前回欠席の委員の方で補足意見はないか。</p> <p>ないようなので、議事を進める。</p>
	○内容1 中学校給食の実施方式等について
	向日市の中学校給食についてふさわしい実施方式について、意見をとりまとめたい。事務局から説明願う。
事務局	今回検討いただくために実施方式を、自校方式、親子方式、センター・

兄弟方式にわけて試算している。

兄弟方式は、1つの中学校で残り2つの中学校の給食を作成するもので、センター方式でも兄弟方式でも3中学校分を作成するので同様に試算している。

また、親子方式は、小学校1校と中学校1校を1組として、その3組としたパターンと、小学校1校と中学校1校、小学校1校と中学校2校を組み合わせた2パターンを提示している。

給食室・給食施設の規模を把握するため表の2段目に食数を提示している。食数は生徒の人数と教職員の人数を基に算出した。

なお、親子方式については、向日市の小学校の食数は平均550食であり、中学校の食数の平均も同様に550食であることから、1対1の1組は小中学校あわせて1,100食としており、また1対2の親子では小学校550食と中学校1,100食で1,650食としている。

次に、延べ床面積は、本市の給食室の1食当たりの面積を参考に、先程の食数を基に表の数値を計上している。なお、親子方式については親校である小学校の食数が計上されるため食数、面積、費用も大きくなる。

費用については、親子方式の表中左側が小学校の給食室も含めた全体の改修・増築にかかる費用、右側が親校である小学校分を除いた費用を参考に示している。

概算費用は、導入初期に係る給食施設の建築費用や受け入れ側の中学校の配膳室、調理器具などの費用をインシヤルコスト（導入初期の費用）とし、また、毎年、経常的にかかる費用、調理従事者や配送車の委託費用をランニングコストとして試算している。費用の算定にあたっては、本市において、直近で建設している第4向陽小学校の実績や他自治体を参考にしている。

なお、自校方式とセンター方式については新築、親子方式については既存の小学校の施設の改修と不足分の増築で試算している。用地取得にかかる費用は計上していない。

その結果、インシヤルコストとしては、給食施設が1箇所に集約され、規模のメリットが働くセンター方式が一番安い結果となった。また、ランニングコストとしては、調理員の人件費について規模のメリットが働かなかったことから配送料のかからない自校方式が一番安い結果となっている。

参考に10年間でかかる費用と20年間でかかる費用を記載している。これらについても、ランニングコストの安い自校方式が一番安い結果となった。

費用については、あくまで目安であり、実際の建物の形状や設備内容によって異なってくるので、方式毎の比較をするための積算であり、実際の金額は変わってくる。

委員長

次に、用途地域等の説明を事務局にお願いする。

事務局	<p>市内の学校が設置されている土地が、都市計画法上どのような地域に指定されているのか、また、給食室などを建築するための制限について、説明する。</p> <p>まず、都市計画法上の用途地域などについて、土地は、住宅や店舗、工場などを計画的に整備する市街化区域と、市街化を抑制する市街化調整区域とに分かれる。市街化区域は、さらに住居系、商業系、工業系の3つの区域に分類される。</p> <p>市街化調整区域に設置されている学校は、西ノ岡中学校、第5向陽小学校、第6向陽小学校の3つあり、それ以外の学校は、低層住居専用地域や住居地域など、住居系の市街化区域に設置されている。</p> <p>次に、建築用途制限について、自校方式は、各中学校に学校施設の機能を持つ給食室を建てることになるので、体育館と同様に、学校の付属施設として建築することは可能であると考えられる。次に、センター方式は、給食センターは建築基準法上、工場の扱いとなり、工業系の市街化区域であれば、建築可能であると考えられる。</p> <p>そして、親子方式は、小学校で作った給食を中学校に搬送することになるので、センター方式と同様、原則として給食室は工場の扱いになる。</p> <p>そこで、学校敷地の中に工場を建築できるかが課題となる。</p> <p>その工場が学校の建物の用途上どのような扱いになるかについて、市街化区域、市街化調整区域の学校においても、京都府と協議する必要がある。</p> <p>なお、第1種低層住居専用地域などの住居系地域での手続きの流れとして、事前に京都府と協議したうえで、周辺の住民の方への意見を聞く公聴会を経て京都府の建築審査会で同意を得るといった流れになる。</p> <p>また、市街化調整区域については、公聴会や建築審査会の手続きを経る必要はないが、市街化を抑制する区域であるので、京都府との協議が必要となる。</p>
委員長	<p>自校方式は、各中学校に給食室を建てて給食を作るという方式。</p> <p>親子方式の1対1は、1校の小学校で、1校の中学校の給食を作るので、6校ある小学校のうち、3校で給食を作って中学校へ運ぶという方式。</p> <p>次の親子方式は、1校の小学校は中学校2校分を担当し、もう1校の小学校が1校分の中学校の給食を作り運ぶという方式。</p> <p>センター方式は、給食センターを設けて、中学校3校へ給食を配送する方式で、兄弟方式は、どこかの中学校にセンター機能を持たせて、他の2校に給食を配送する方式。</p> <p>費用面と土地の問題の説明をいただいたが、委員のみなさんの意見を願います。</p>
委員	<p>費用目安を見て、自校方式が一番高いと思っていたので、変わらないことに驚いた。センター方式は、3校分作るの、スケールメリットもあり、ラ</p>

	<p>ンニングコストも安く抑えられると思っていたが、自校方式と比べ、配送費用が必要になるためか、高くなっている。中学校分だけで考えると、費用に大きな差がないなら、食育の面からも、配送がないメリットを考えても、自校方式がよいと思う。</p>
<p>委員長</p>	<p>センター方式に土地取得の費用が入ってないので、もう少し高くなると思われる。自校方式が良いとして、中学校に給食施設を建てる面積があるのかや土地の制限について、事務局からもう少し詳しく説明願いたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>学校敷地内の土地の状況は、自校方式として、給食施設を建てられるスペースがあるのは、3中学校中1校と考えている。土地の確保が困難な2校については、校舎を利用するとか、まわりの土地の買収は期間を要する。親子方式について、1対1の場合、親校になる給食室を持つ小学校が3校必要になるが、中学校分の給食施設を増築するスペースを既存の小学校の給食室に隣接して土地が確保できる小学校が2小学校と判断している。親子方式の1対1と1対2の組み合わせでは、2校の小学校で中学校分を増築できると判断しているので、土地の問題はない。センター方式については、土地が確保できていないので、今後用地の取得をするために、期間が必要になると判断している。兄弟方式については、中学校の敷地内に、中学校のセンターのような給食室を設置することになる。若干既存施設の移動は必要になるが、土地の確保はなんとかできる。ただし、細長い土地の形状になるので、3中学校分の給食室が稼働できる設備の配置や動線については、専門的な判断が必要になるという状況である。</p> <p>いずれにしても、自校方式以外は、京都府との協議が必要になる。</p>
<p>委員</p>	<p>今の説明で、1中学校が自校方式、2中学校が親子方式は可能か。自校か親子かどちらかに統一しなくてはいけないのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>土地の用途確保からいくと、1中学校自校方式、2中学校親子方式の設定は可能かと思うが、中学校給食を始めるにあたって、どの中学も差のない方式で取り組めたらと考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>親子方式に対して心配な面として、小学校の給食は衛生面であったり、アレルギー対応であったり、かなり細やかな配慮をしながら実施しているが、中学校が入って食数が多くなることで、十分な保障はされると思うが、対応できるのかが心配される。今の小学校給食の提供に影響のないような配慮が必要になると思う。</p>
<p>委員長</p>	<p>食数が増えれば増えるほど、個別対応が難しくなると思う。</p>

委員	<p>小学校では、温かいものを子ども達に提供したいと、ぎりぎりに配食をしている。特色のある給食ということで、自校で採れたものを使ったり、セレクト給食やバイキングなどの取り組みをしている。親子給食になると、視察で見たところでは、中学校の給食を出して、小学校の給食を作るという方式であったので、給食の質を落とさないような配慮ができれば親子給食も実施できるが、アレルギー対応など細やかに対応している部分ができるか不安に思っている</p>
委員	<p>今の説明では、自校方式ができれば費用面で安いですが、3校のうち1校しか自校方式ができる用地がないので、あとの2校ができないと受け取ってよいか。</p>
事務局	<p>事務局の判断では、自校に給食室が建てられるのは1校で、2校は敷地の問題があり難しいと考えている。</p>
委員長	<p>ということは、自校方式は不可能という前提でよいか。</p>
事務局	<p>かなり難しいと判断している。</p>
委員	<p>方式は3つあるが、自校方式を選択すると1校は自校方式で、他の2校は親子方式でいくのか、それとも課題はあるがセンター方式で行くのか、選択肢は2つになるのか。</p>
委員長	<p>他に、親子方式で1対1や1対1と1対2も不可能ではない。しかしながら小学校が自校分と中学校分と2校分で給食数が増えるので、その小学校で独自に取り組んでいる食育をかねた特色のある給食の制限や、衛生面・安全面でも課題を残すのではないかということか。</p>
委員長	<p>自校方式は1校しか無理なので、あとの2校について、小学校と1対1とする親子方式もあれば、小学校に2校分作ってもらう親子方式もある。あるいは、中学校の場合は、1校の中学校にセンター機能を持たせ1中学校で3中学校分を作ることも可能ということで、ご意見をお願いしたい。</p>
委員	<p>1つの中学校で3校分賄えるなら良いが、できないのなら、中学校専用のセンターを作ってもらい、安心安全な給食を作してほしい。</p>
委員	<p>できる方法とできない方法があるなら、できることの中から考えた方がよい。3校とも自校でできないなら、検討からはずして考える。自校方式と親子方式の組み合わせは、高槻市がそうであったし、セレクト給食など独自のことを小学校でやるときも、お弁当の日を中学校で設けてその日に実施する</p>

	などできる。
委員長	自校方式が1校だけ可能となると、平等感から考えてやめた方が良いと思うなら、その様に意見をまとめたい。
委員	中学校での自校給食を視察して、良いと思っているが、条件的に無理であれば、自校をはずしても仕方がないと思う。1校だけ自校というより、3つの学校同じ条件のほうが良いと思う。
委員	センターを建ててもらうのが一番良い。親子方式は、小学校、中学校それぞれに家庭訪問や修学旅行など給食のいる日が異なり、親子方式にすると、小学校が大変になるので、センター方式と思っている。親子方式の視察に行ったが、先に中学校分を作るので、試食したら温かいというより、生ぬるい給食であった。温かい給食というのであれば、1,650食一度にできる施設を要望したいと思う。
委員	理想は自校方式ではないか。調理員さんが自分達のために作ってもらえるというありがたみが違うと思う。それが無理なら、センターで同じ条件でというのが良いと思う。
委員	自校方式で、そこに携わっている人がいて、出来上がるにおいがするという体験ができれば、何よりの食育になると思う。
委員	向日市では安全安心でおいしい給食を実施されている。食数が多くなると心配なことも多くなるし、行事や時間割が小学校と中学校では違うので、それぞれでの給食が良いと思う。
委員	自校方式が一番望ましいとさきほど意見が出たが、1校しかできなくて、指導も統一したほうが良いのであれば、センター方式しかないと思う。親子方式は、行事のことや衛生面、アレルギーのことを考えると、難しいこともあるので、同じ献立で、同時に出せるセンター方式で、また、兄弟方式が一番良いと思う。
委員	3中学校の中で1校だけ自校方式で他が親子方式については、1校だけ自校だと不平等になるという意見が出ていたので、それでいいのかの確認をしておいた方が良い。自校方式が一番良いが、1校しかできないなら、不平等にならず、小学校にも影響のないようにセンター方式、又は、用地取得の必要のない兄弟方式が良いと思う。
委員	委員会の報告書で、どの方式で実施するということを決めるのは、用途の

制限もあつたり、3中学校分の調理ができる施設が建つのかの調査が必要であつたりして、そこまではできないと思う。ここでは、大きな方向性を決めてほしい。例えば、結論としては、自校方式が一番良いが、実際には3校実施するのは難しい。それならどの方式という報告で良いと思っている。個人的な考えは、兄弟方式で中学校の敷地内に中学校3校をセンター的に、造れば良いと思っている。委員から意見のあつた外のセンターについては、土地の取得費が必要となり、その土地をこれから探すとなると、期間が遅れるかもしれない。費用面と期間から考えて、外のセンターは難しいと考えている。

委員

自校方式が一番良いと思うが、できないなら、次はセンター方式で、土地取得費など費用面を考えるなら、兄弟方式が良いと思う。給食室をつくる中学校に迷惑がかかるなら、外にしなくてはいけないと思う。

委員

親子方式は、小学校にとって課題があるのであれば、それが避けられる方式、例えばセンターや兄弟方式が一番良いかと思う。いずれにしても、できるだけ早い時期に実施していただきたいと思う。その中で、ある中学は給食が実施されるが、他の中学は1年遅れるということがあつても良いと思う。いろいろ検討した結果、1校は自校方式で、あとの2校が違う方式になつても、いろいろ検討して、足並みを揃えて3校同じようにできない結果でも、それはそれで良いと思う。

親子方式は、視察に行つてないのでわからないが、課題があるということか。

委員

課題があるということではない。今の向日市の小学校給食は、自校方式で各校に栄養教諭、若しくは栄養教諭の未配置の学校については向日市職の栄養士が配置され、献立を管理し、食に関する指導に取り組んでいる。京都府下でも乙訓地域だけの配置である。各校では、学校で収穫した野菜の献立を取り入れたり、発達段階に応じた学年別のバイキングに取り組んだりと色々な取り組みをされていることを、給食協議会でお聞きしている。先ほどの話の中で、お弁当の日など中学校給食のない日に、取り組みをするなど、工夫はできるし、実際親子方式で給食を実施されている。また、小学校分を改修し中学校分を増築することもできるので、課題があるという表現は違うと思う。

委員

費用面で、自校方式と親子方式で、4億円の差があり、ランニングコストでも、倍の差があるのは、学校全体でどれくらいになるのか。

事務局

親子方式が高くなるのは、小学校分の費用が含まれるため、中学校分のみは、右側の数字になり、それほど差がないという結果になっている。

委員	<p>兄弟方式が良いと思っている。無理なら、外にセンターを作ってほしいと思う。小学校の親子方式だと、視察に行った時に残食がとても気になったが、そこを小学校で把握して改善のための食育に取り組んでもらうのも厳しいのではないかと思いますので、中学校は中学校でやってほしいと思う。</p>
委員	<p>自校方式が良いと思う。3校それぞれの自校方式が無理ならば、センター方式が、小学校に負担がかからず良いと思う。建築用途の制限として、工場扱いとなるため、親子方式の場合、5向小と6向小の市街化調整区域以外は難しい。小学校で2校しかできないので、1対1の親子は検討すらできない。となると、1中学校は自校方式で、後を1対1の2校ですか、あるいは1対2の親子方式になる。そうすると、小学校は今の3倍の給食を作ることになるので、規模も増築が必要になり、小学校の施設を一部制限することになるため、親子方式はできれば避けたい。兄弟方式は、1つの中学校のグラウンドが狭くなったりする影響が出るのであれば、外に土地を買っていただいてセンター方式が良いと思う。</p>
委員長	<p>ここで一度まとめたい。委員全員、自校方式が良いと思ってるのは共通の考え方。現実的に、1校しか無理であれば、あとの2校が親子方式にならざるをえない。乙訓は小学校全校に、栄養教諭が配置され、食育活動も活発で、給食の内容もアンケート結果にもあったように、人気が高い。親子方式にすることで、小学校の食育活動に影響を受ける。衛生面・アレルギー対応の指導の問題、あるいは小学校に給食施設を拡大するなら、場所が狭くなるというような問題が生じる。そうすると、どこかに中学校用のセンターを作ることになるが、費用面はかかるが、給食センターを建てたほうが良いか、1校可能と言われている中学校にセンター機能を持たせた兄弟方式が良いか意見が分かれている。中学校にセンター機能を持たせることについて、中学校の用地、生徒が使っているところがどれくらい制限を受けるのか、事務局でお願いしたい。</p>
事務局	<p>中学校にセンター機能を持たせた給食室を建てる敷地について、生徒が使っているグラウンドやテニスコート、バレーコートを制限して建てるということではない。まったくの更地ではないので、キュービクルや受水槽など若干の施設の移動は必要になる。学校に確認すると、生徒の畑にかかるかもしれないが、施設を制限することにはならない。</p>
委員長	<p>いろんな条件から、センター方式が良いという意見になったと思う。そのセンターについて、費用の問題もあるが、別途に土地を取得してやる方法と、中学校に土地をお借りしてやる方法がある。可能であれば、中学校にセンターを建てて中学校給食をするのが、一番現実的になる。1,650食のセンターができるかどうかは、専門家の判断いただくことになるので、報告書を</p>

事務局	<p>作るにしても、みなさんの意見はこうだけど、現実的に考えて委員会としては、こういう方法でとして集約してよいか。</p> <p>外部センターの土地取得については、費用のこともあるが、場所が工業地域にセンターの場合限られるので、いつ可能になるか、不確定な要素がある。すぐに用地が取得できれば、スムーズな建設に移れるが、かなり不確定になる。開始時期に差があっても仕方ないという意見もあったが、土地の取得のない兄弟方式が一番現実的かと思う。検討課題もあるので、できないとしたら、どうするのか、センター方式になるのか、他市でもされている親子方式になるのか、も考えていただきたい。</p>
委員長	<p>委員会としては、センターとして、兄弟方式が一番良いという結論になったと思うが、それがだめな場合にどうするかを決めておきたい。そうすると親子方式として、1対1と1対2を想定するのか、中学校1校を自校方式でして、あとの2校を親子方式とするのかということになる。</p>
委員	<p>兄弟方式も、給食室があるところは、自校方式と同じことになるので、次の案としては、自校が1校と2校が親子でも、自校で作れない2校については、運ばれてくるものを喫食するということでは、変わらないので、不平等感を感じないと思う。</p>
委員長	<p>そこで、小学校が1対1で中学校分を作るのか、1対2で作るのかということになる。</p>
委員	<p>小学校は、どちらが負担が少ないか。</p>
委員	<p>余力があれば1対1対応もできるが、少ない方がありがたい。視察先では、中学校を、1学年分と2学年分を学年で区切って小学校で親子をされているケースもあった。学年毎の対応を考えると、小学校も対応しやすいと思う。また、今の給食室の設備では、厳しいが、もし増築等ができれば2校分の提供も可能である。</p>
委員	<p>親子方式のメリットについて、現在の小学校の給食室はかなり老朽化しており、改修の際にドライ方式といって、床を濡らさない方式に変えていくこともできる。これは、カビが生えたり、雑菌が繁殖しないようにできる方式である。小学校も改修するので、新しい方式の給食室にできるというメリットがある。今後必要になる改修が、ここで一緒にできてしまう。</p>
委員長	<p>小学校で親子ができる場所は、2校。1校で2校の中学校分を作れるところがあるという前提でよいか。</p>

事務局	<p>施設を増築することになるが、1校の小学校で、中学校2校分を提供することはできると考えている。</p>
委員長	<p>一番最初に考えてもらうのは、中学校1校にセンター方式の機能を持たせて中学校3校分をそこで作る。土地の形状等を専門家に見てもらって、ダメな場合は中学校2校については、親子方式で、1校の小学校で2校分の中学校分を作る方式を取らざるをえないということで、よいか。</p>
委員	<p>外のセンターはないのか。</p>
委員長	<p>外のセンターは考えてもらうが、用地取得の問題がある。順番は、まず、兄弟方式、外のセンター、それから、親子方式ですか。</p>
事務局	<p>外のセンターは、土地取得の目処が立たないため、何とも言えない。順位を上げて、土地の目処がなく、給食実施の時期を考えると、いつかわからない状況である。</p>
委員長	<p>ここに、センターと書いてあるが、兄弟方式のセンターで、外のセンターは3番目か4番目ということか。</p>
事務局	<p>親子方式にしても、工場扱いとなる。府内で親子方式がないため、今後府と協議をすることになる。それがダメということになれば、外のセンターしかない。その場合、土地が取得出来次第ということになる。</p>
委員長	<p>1校の中学校に自校方式をする場合は、京都府の許可は必要ないが、あとの2校について、外部に給食を出すということで、京都府との協議が必要になってくる。</p>
委員	<p>兄弟方式になった時に、中学校2校に配送すると、工場扱いになるが、その管理責任は、学校の一つとして学校が管理するのか。今なら、校舎、体育館、プール、これは敷地内にあるので、学校に管理責任がある。工場扱いになるとかわってくると思うが、どうか。</p>
事務局	<p>工場扱いになるのは、土地の用途制限上のことで、許可が必要になる。中学校に建てる施設については、学校の施設の一部として管理いただければと考えている。</p>
委員	<p>外にセンターを作るのが一番良いとして、土地取得が未確定であり、それに期間を要するなら、親の立場として、実施時期も大切だと思うので、方式としてはセンター方式が良いと考えるが、相当な期間を要するのなら他の方</p>

	<p>式を考える旨報告書には載せてもらおうと良い。</p>
委員	<p>兄弟方式は、2 中学校は受配校になるが、設置された中学校は自校方式になる。兄弟方式ができない場合、親子方式の1対1と1対2にするのか、できるところは自校方式でして、他を1対1の2組か1対2でするかになるが、1校だけ自校方式でも良いと思うがどうか。</p>
委員長	<p>小学校は2校しかできない。親子方式で1対1と1対2で組み合わせるか、1校は自校方式で残りを1対1の2組か、1対2でするかということになるが、そこをどう考えるか。</p>
委員	<p>先程の議論で、自校方式が良いが1校しかできないなら、不平等になるので、センター方式でということになった。ここで、1校自校方式にすることについて、再度確認しておいたほうが良いと思う。</p>
委員長	<p>会議の最初の意見では、1校だけ自校方式は平等性に欠けると意見が出ていたが、どうか。</p>
委員	<p>外にセンターがあればと良い思っていたが土地の取得に期間がかかるのであれば、兄弟方式か自校方式と1対1の2校で親子方式をしてもらうしかない。小学校にデメリットはあるが、センターの土地を取得できなければ、給食自体ができなくなる。</p> <p>優先順位としては、できれば3中学校自校方式が良い。自校方式が1校しかできないなら、できれば土地を取得して、小学校に迷惑をかける方法は考えたくない。</p>
委員長	<p>その場合、1校は自校方式として、あとの2校の中学校を小学校1校で1対2でやってもらうのか、2校で1対1でやってもらうのかについて、1対1の方が、規模が小さいので衛生管理や個別対応がしやすいが、どうか。</p>
委員	<p>1校の小学校で、今の3倍の給食を作るために敷地や人員をさいていただくなら、2校の小学校に、1対1でお世話になる方が、小学校にかける迷惑の度合いが少ないと思う。</p>
委員	<p>少しでも規模が小さいほうが良いと思う。メニューについて、小学校でもカレーの辛さを、高学年と低学年でかえる配慮をしているので、中学校は中学生用の献立でセンターで作った方が良いと思う。</p>
委員	<p>小学校のことを考えると、外にセンターを作ってもらった方がベストだと思うが、結果として無理な場合、中学校1校が自校で2校が親子方式が考えら</p>

	<p>れる。小学校に迷惑というのではなく、中学生に温かい給食を提供することが大きなことなので、なんらか影響がでるのは協力し、譲り合うことも必要だと思う。</p>
委員	<p>兄弟方式の場合、給食は1工程で作るのか。2工程だと土地面積や施設等変わってくるが、1工程で作ると確認してよいか。</p>
委員	<p>温かい給食を届けるのが基本なので、それができるようにしたいと考える。</p>
委員長	<p>意見は集約されたと思うので、報告書のまとめ方であるが、双方にメリットがある方向で、子どもたちの発達に寄与できるような給食を、みんなで協力し進めて行きたいと思う。運営上の問題は、専門的に検討いただく。方式については、みなさん、理想としては自校方式だが、できないので1校は自校で、そこで、センター機能を持つ兄弟方式が可能であれば中学校の給食を一括であれば良い。それが不可能であれば親子方式を考えなくてはならない。その場合、1対1で中学校2校分の方がデメリットが少ないとの意見であったと思う。外部に土地を買ってセンターを作るということを、放棄したわけではない、現実に可能かどうか検討いただきたいと、まとめてよいか。</p>
委員	<p>はい。</p>
委員長	<p>ということで、事務局お願いします。</p>
事務局	<p>みなさん、それぞれの思い、貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。</p> <p>次回報告書の案を提案させてもらうので、報告書の内容について議論いただくようお願いしたい。</p>
	<p>閉会</p>